

世界津波の日高校生サミット実行委員会 第4回総会 議事録

| | |
|-----|---|
| 日 時 | 令和元年（2019年）5月29日（水） 13:30～14:00 |
| 場 所 | 道庁赤れんが庁舎 2階1号会議室 |
| 議 題 | 1 「世界津波の日」2019高校生サミット in 北海道について 2 関連行事について 3 PR活動について 4 今後のスケジュールについて |

議 事

（開会：谷内世界津波の日高校生サミット推進室長）

本日は、お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。ただいまより、「世界津波の日高校生サミット実行委員会 第4回総会」を開催いたします。はじめに、開催に当たりまして、北海道総合政策部長の小野塚よりご挨拶申し上げます。

（挨拶：小野塚総合政策部長）

ただいま紹介があった本実行委員会の幹事長を務めている総合政策部長の小野塚です。本日は、大変お忙しい中、第4回の総会にお集まりいただき誠にありがとうございます。

また、皆様には、サミットの開催に向けて、多くのご協力とご支援をいただいていることに、この場を借りてお礼申し上げます。

ご承知のとおり、世界津波の日高校生サミットは、2015年に国連総会において、11月5日が「世界津波の日」として制定されたことを契機として、翌年の2016年から国内で開催されており、高知県、沖縄県、和歌山県に続き、4回目となるサミットを9月に北海道で開催することとなったところであります。

開催に向けて、現在、関係省庁や関係団体、さらには、本日お集まりの実行委員会のメンバーの皆様と、サミット会議やスタディツアーの準備を進めておりますが、道としては、国内外から多くの高校生が参加するこのサミットを通じて、それぞれの国や地域で防災リーダーとして活躍する人材の育成はもとより、本道を舞台にともに学び交流することにより、参加する高校生の記憶に残り、北海道と世界各国との「きずな」が更に深まる機会としていくことが重要と考えております。

そのためには、札幌で開催するサミット会議や、道内各地域でのスタディツアーの実施に当たって、防災学習はもちろんのこと、北海道ならではの豊かな自然や文化、おいしい食といった本道の魅力を世界にアピールする絶好のチャンスと捉え、プログラムの内容や魅力発信の方法についても、皆様方と一緒に十分な検討と準備を進めていくことが必要と考えております。

本日の総会では、これまでの準備状況をご報告するとともに、本実行委員会が実施する「事前学習ツアー」や「PR活動」といった取組についてもご説明し、皆様から

ご意見などをいただきたいと考えております。

サミット開催まで3か月ほどとなりましたが、今後も皆様と連携しながら、北海道ならではのおもてなしの心で、国内外の高校生を温かく迎え入れることができるよう、準備を進めてまいりたいと考えております。

引き続きご協力をお願いし、挨拶とさせていただきます。

(議事：谷内世界津波の日高校生サミット推進室長)

申し遅れましたが、私は本日進行を務めさせていただきます当実行委員会事務局長、北海道総合政策部世界津波の日高校生サミット推進室長の谷内でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の出席は、お手元に配付のとおりであります。時間の都合上、読み上げは割愛させていただきますが、スタディツアーで防災学習や学校交流を行う地域が確定したことから、訪問地域やサミット開催地の皆様に新たに実行委員会に参加いただいております。改正した規約については、お手元に参考資料として配付しているので、後ほど確認願います。

なお、小野塚部長においては、他の用務のため、ここで退席させていただきますので、ご了承くださいませようお願いします。

それでは、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。本日の議題は4件でございます。

最初に、議題の1番目「世界津波の日」2019高校生サミット in 北海道について」と議題の2番目「関連行事について」、事務局から説明させていただきます。

(説明：前川世界津波の日高校生サミット実行委員会事務局次長)

サミットの概要などにつきまして、ご説明申し上げます。

まず、議題1についてでございますが、資料1-1 開催概要(案)をご覧ください。

ただいま、小野塚部長のご挨拶にもありましたとおり、このサミットは2015年の「世界津波の日」の制定を機に、2016年から開催されており、4回目となる今年、北海道で開催するものであります。

主催は、北海道と北海道教育委員会となっております。また、国連防災機関駐日事務所の共催、外務省、文科省といった関係府省庁やOECDなどの関係機関から後援をいただき開催することとしております。

「2 開催趣旨」の最後の3行にあるとおり、高校生サミットの目的は、地震津波から国民の生命、身体、財産等を保護し、国民生活及び国民経済に及ぼす影響を最小限にとどめる国土強靱化を担うリーダーを養成するというものでございます。

北海道の開催では、参加する高校生には、平成5年に発生した南西沖地震の教訓を踏まえた津波防災のほか、今後発生が想定される火山噴火や千島海溝地震など、本道

が有する大規模自然災害のリスクに備えた事前防災の取組を学んでもらうとともに、高校生同士の交流を通じて、国際理解の向上と国際交流の拡大も図っていきたくと考えています。

日程については、9月10日・11日の2日間、会場は北海道立総合体育センター「北海きたえーる」での開催となります。現時点では、国内からは71校191名、海外からは44か国220名、合計411名の高校生の参加が見込まれておりますが、海外参加国については、最終確認前で今後変更の可能性がある旨、外務省から報告を受けておりますので、ご承知おき願います。使用言語は英語で、それぞれの国や地域での防災の取組や今後の災害対策などをディスカッションする分科会と、分科会の結果を発表し、北海道大会の成果を全体で取りまとめる総会を予定しております。

また、9月10日の夕方には札幌パークホテルにおいて参加者同士の交流を図るレセプションを開催するほか、9月11日の朝には、記念植樹・記念碑除幕式を知事公館庭園で行うこととしています。

なお、海外からの参加者向けに実施される「スタディツアー」については、この後の関連事業の中で説明させていただきます。

国内外の参加校については、資料1-2と資料1-3に、また、記念植樹・記念碑除幕式の概要とサミット会場となる「北海きたえーる」のメインアリーナのレイアウトについては、資料の最後に参考資料2、3として添付しておりますので、後ほどご確認いただきたいと思います。

本開催概要（案）については、これまで共催者や関係省庁と打合せを重ねてきたものであり、本日、この実行委員会総会において、皆様にお諮りし、ご承認いただいた上で成案としたいと考えておりますので、よろしく願います。

続きまして、議題の2、関連行事についてであります。資料2をご覧ください。道内のサミット参加高校生を対象に実施する8月の事前学習ツアーについて、ご説明いたします。

日程は8月6日から8日の3日間で、奥尻町海洋研修センターをメイン会場に、南西沖地震の慰霊碑である「時空翔」や津波館などを訪れ、サミット本番に向けて、事前に防災学習や英語学習を行う予定としています。

資料2の裏面にあるとおり、事前学習ツアーは、平成5年の南西沖地震の被害から復興を果たした奥尻町で、防災・減災、災害からの復興などを学ぶことを目的としており、実際に、南西沖地震の被害にあわれた方や津波語り部隊の方々を講師に島内視察を行う予定としております。

サミットに参加する道内高校生55名と、地元・奥尻高校の生徒が参加し、プログラムや交流会を通じて、交流を深めるとともに、国内外から集まる参加者と活発にディスカッションができるよう準備を進める機会としたいと考えております。

次に、資料3-1をご覧ください。関連事業の一つとして実施される「若き津波防

災大使スタディツアー」であります。資料1-1、開催概要の説明で触れた「スタディツアー」の正式名称となります。この「若き津波防災大使スタディツアー」は、公益財団法人日中友好会館と株式会社JTBが実施団体として行うもので、対象は海外からサミットに参加する高校生となっております。

日程は、サミット本番前の9月7日から9日までの3日間で、奥尻町、倶知安町、洞爺湖町、壮瞥町を訪問する1班と、釧路市、浜中町、上富良野町、美瑛町を訪問する2班に分かれ、各訪問地で防災・減災を学ぶとともに、地元高校生と交流しながら北海道の文化や自然に触れていただくこととしています。

本日お集まりの皆様は、地元を訪問することとなっているので、海外からの参加者の受け入れと交流、さらにはおもてなしについて、よろしくお願いします。

また、資料3-2にあるとおり、奥尻町、釧路市、浜中町におかれては、実施団体の事前調査として、すでに視察会を実施させていただいたところであり、この場を借りて、改めてお礼申し上げます。

事前調査については、明日から明後日にかけて、洞爺湖町、壮瞥町、倶知安町で視察会を行うほか、札幌市内のサミット会場や植樹会場などの視察を予定しているところです。関係する皆様には、受け入れ等について、よろしくお願いします。

議題1、議題2については以上となります。

(議事：谷内世界津波の日高校生サミット推進室長)

ただ今事務局から「世界津波の日高校生サミット」の概要と関連行事である「事前学習ツアー」、「若き津波防災大使スタディツアー」についてご説明しましたが、ただいまの点につきまして、ご質問やご意見などはございませんでしょうか。

それでは、資料1にごございます開催概要(案)については、この会議でお諮りし、成案としたいと考えておりますが、この内容で異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございます。これをもって、開催概要を成案とし、また、ただいま説明しました内容で準備を進めてまいります。

スタディツアーにつきましては、今後実施団体である日中友好会館、JTBと話を詰めていただくこととなりますので、何卒よろしくお願いします。

続いて、議題の3番目「PR活動について」と、議題の4番目「今後のスケジュールについて」、事務局から説明いたします。

(説明：前川世界津波の日高校生サミット実行委員会事務局次長)

議題3、PR活動について、資料4-1から順次ご説明申し上げます。

まず、資料4-1 記者会見であります。現時点ではあくまで「予定」であります。6月17日に、過去3回の開催と同様に、東京において、高校生議長2名と、知事と教育長が出席し高校生サミットの開催を公式に発表することとしております。過去3回の開催では「世界津波の日」の提唱者である自民党の二階幹事長も出席し、ご挨拶されており、今回も二階幹事長の出席について調整中でございます。

この記者会見を皮切りとして、北海道における高校生サミットの開催や関連行事の実施について、報道機関への情報提供やホームページによる広報活動など、積極的に発信していくこととなるので、構成団体の皆様におかれても、ご協力いただきたいと考えております。よろしく申し上げます。

次に、資料4-2 をご覧ください。サミット会場の「北海きたえーる」内でのパネル等の展示についてであります。9月10日、11日の高校生サミットの際には、1階ホワイエにおいてパネル展を行うこととしております。

現時点では、「2 出展団体及び内容」に記載の団体・内容の出展を予定しておりますが、スタディツアーなど、関連事業にご協力いただく市町の観光PR等も可能となっており、出展について検討いただきたいと思います。

ただし、本サミットは国連防災機関との共催となっていることから、特定企業のPRなど、営利目的の展示はできないので、この点は留意願います。

なお、パネル等の配置場所は、参考として資料の最後に図面を添付しているため、後ほどご確認いただければと思います。詳細については、事務局まで確認をお願いします。

次に、資料4-3 各地域におけるPRについてです。まず、PRポスターについては、日本語版と英語版を作成することとしております。資料4-3の後に、日本語版と英語版、2種類のポスターの見本を添付しておりますが、実際には、B2版サイズとなるものです。道庁やスタディツアーで海外の高校生が訪問する地域の振興局はもとより、後援いただいている関係省庁にも配布し、掲示してもらうこととしております。さらに、サミット開催地である札幌市内やスタディツアーで訪問する地域のコンビニエンスストア、スーパーマーケットなどにも掲示をお願いしたいと考えているところでございます。

ほかにも、道庁ブログや「広報誌ほっかいどう」、「新聞広告〈みなさんの赤れんが〉」による発信など、可能な限り多くの方々目に留まり、気運が高まるようPRしていただきたいと思います。実行委員会構成団体の皆様におかれても、庁舎内でのポスター掲示や広報誌などで積極的にPRしていただきたいと思います。

最後になりますが、議題の4「今後のスケジュール」については、資料5に、明日からサミット本番までの主な予定を記載しております。これまでの説明と重複する部分が多いので、説明は割愛させていただきます。議題3、4については以上になります。

す。

(議事：谷内世界津波の日高校生サミット推進室長)

以上、「PR活動について」と「今後のスケジュールについて」説明させていただきました。ただ今の説明につきまして、ご意見等はございませんでしょうか。

(意見等は特になし)

それでは、ただいま説明した内容で準備を進めさせていただきます。

(閉会：谷内世界津波の日高校生サミット推進室長)

先ほど部長の小野塚からも話がありましたが、残り3か月余りとなりました。非常に多くの海外からの高校生が集まる行事となります。これからPR活動などについても行ってまいりますし、地元の方々にもこうした取組、防災・減災に関する取組を知っていただきたいと考えておりますので、そうした点でのご協力もお願いします。

以上で、本日予定していた議事は終了しましたが、この機会に何かご発言がございましたらお願いいたします。

(特に発言なし)

「世界津波の日高校生サミット実行委員会 第4回総会」を閉会いたします。9月の開催に向けて、引き続き、皆様方と連携を密にしながら準備を進めてまいりますので、今後ともよろしく申し上げます。

本日は、お忙しい中どうもありがとうございました。